

## 平成 28 年 9 月の解説（府県天気予報）

### 【9 月の天候状況】

上旬は、日本の南東海上で高気圧の勢力が強く、東日本は概ね晴れた一方、北・西日本と沖縄・奄美では、低気圧や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりました。旬の前半は、九州や北海道では湿った空気が入りやすく、天気がぐずつきました。また、沖縄の東から九州の西を北上した台風第 12 号が 5 日未明に長崎市付近に上陸し、九州地方では大雨となったところもありました。6 日から 7 日にかけて北海道地方では低気圧による大雨で河川がはん濫しました。また、低気圧の影響で、8 日から 9 日にかけて北日本太平洋側の各地で大雨による災害が発生しました。

中旬は、北日本から西日本にかけては、本州南岸沿いに停滞した前線や台風第 16 号の影響で、曇りや雨の日が続き、大雨となった日もありました。沖縄・奄美では、旬の中頃までは太平洋高気圧に覆われ概ね晴れましたが、17 日以降は台風第 16 号の接近などにより曇りや雨の日が多くなりました。旬間日照時間は平年比で、東日本日本海側で 38%、東日本太平洋側で 26%、西日本日本海側で 44%といずれも統計開始（1961 年）以降最も少なくなり、西日本日本海側では旬降水量が平年比で 348%と統計開始（1961 年）以降最も多くなりました。台風第 16 号や前線の影響により各地で大雨となり、17 日から 20 日の総降水量が 400mm を超えたところもあり、各地で大雨による災害が発生しました。

下旬は、前線が日本付近に停滞したため、東北地方以南で曇りや雨の日が多くなりました。28 日から 29 日にかけては、九州北部地方では前線の影響で大雨となりました。また、九州各地で突風による災害が発生しました。一方、北海道地方は移動性高気圧に覆われて概ね晴れました。27 日には台風第 17 号が沖縄地方に接近したため、先島諸島では暴風や大雨となりました。全国的に暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・西日本では気温がかなり高くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、北・東・西日本で高くなりました。名瀬（鹿児島県）では月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。月降水量は、西日本でかなり多く、東日本と沖縄・奄美で多くなりました。延岡（宮崎県）では月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。一方で、留萌（北海道）では月降水量の少ない方からの 1 位タイの値を記録しました。月間日照時間は、東・西日本と沖縄・奄美でかなり少なく、北日本で少なくなりました。松江（島根県）、那覇（沖縄県）など 8 地点で月間日照時間の少ない方からの 1 位の値を更新しました。

### 【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 4 ポイント低い 78%で、明後日予報は例年値より 3 ポイント低い 74%でした。各地方の適中率では、明日予報については、東・西日本を中心に 7 地方で例年値より低くなりました。特に九州南部地方では 13 ポイント低くなりました。明後日予報では、北日本以外の全ての地方で例年値以下となりました。特に、中国、四国、九州南部の各地方で 10～11 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.6 となりました。沖縄地方以外の全ての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.0 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【11 月の天気予報の利用にあたって】

次第に冬型の気圧配置の頻度が増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。降水が雨となるか雪となるかは、地上や上空の気温および湿度などの状況によって決まります。11 月は真冬に比べると気温が高いため、まだ本格的な雪の季節に入るわけではありませんが、雪が降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降水量が少なくても交通や生活に大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。